

医療通訳・通訳支援等の活用の工夫とポイント

森田直美

一般社団法人 全国医療通訳者協会 代表理事

【発行】

国立障害者リハビリテーションセンター 企画・情報部
発達障害情報・支援センター

本日の話題

1. 医療通訳についての基礎知識
2. 言語支援上の課題を学ぶ
3. 通訳活用のポイントを理解する



本日の話題

1. 医療通訳についての基礎知識
2. 言語支援上の課題を学ぶ
3. 通訳活用のポイントを理解する



一般社団法人 全国医療通訳者協会(NAMI)

【設立年】 2016年

【団体趣旨】

- ・ 医療保健場面で通訳を必要とする人々の健康と福利に貢献すること
- ・ 国内外の関係団体との連携
- ・ 医療通訳に関する調査研究
- ・ 医療通訳の普及・発展
- ・ 専門職化、報酬改善、労働環境向上

【個人会員】 約230名

【言語数】 14言語

【賛助(個人/団体)会員】 約30名

【ホームページ】 <https://www.nami-j.org>



医療現場あるある

1) 外国人にはまず、英語で話しかけるべきだ

→ アジア人の多くは、英語でのコミュニケーションは得意ではない

2) 日本語で話しかけたら「はい」と返答したので、その後は日本語で話した

→ 簡単な日本語を理解できても、訴えを日本語で話すことができない人も

3) 民族的風習・社会規範・宗教上の戒律に対する思い込み

→ 個人差が大きい

4) 告知はすぐに本人にすべきだ

→ 家族が治療方針を決める習慣も



NAMI

医療通訳とは？

【定義】

医療・保健分野で異なる言語や文化を持つ医療従事者と外国人患者の間に入りコミュニケーションを成立させること

- ・ 言葉/(医療)文化の架け橋
- ・ 力の格差を減らす助け(立場医療, 知識, 理解)

【職業倫理や行動規範】

- ・ 忠実性/正確性, 中立/公平を重視

【教育】

- ・ 「医療通訳育成カリキュラム基準」(平成25年, 厚生労働省作成)
- ・ 通訳技術, 職業倫理, 医療知識など

【資格】

- ・ 医療通訳検定や団体の登録試験, 学会認定制度
- ・ 国家資格はない

通訳の種類

【通訳種類】

コミュニティ通訳, 一般通訳, 会議通訳 など

【コミュニティ通訳とは】

司法, 医療, 教育など市民生活に必要な場面での通訳

国際標準化機構 (ISO) ガイドライン...

コミュニティ通訳は職業であり, 友人, 家族, 子供, またはこの国際規格に規定された能力および資格を持たない, あるいは関連する倫理規定に従わない人により実行されるカジュアルな通訳ではない. (ISO 13611:2014 Abstract より; 現在 ISO 13611:2024へ置換)

医療通訳はどこにいるの？

◆ 対面医療通訳

【派遣型】

地域のNPOや国際交流協会からの派遣

【常駐型】

病院配置



◆ 遠隔医療通訳

【電話通訳】

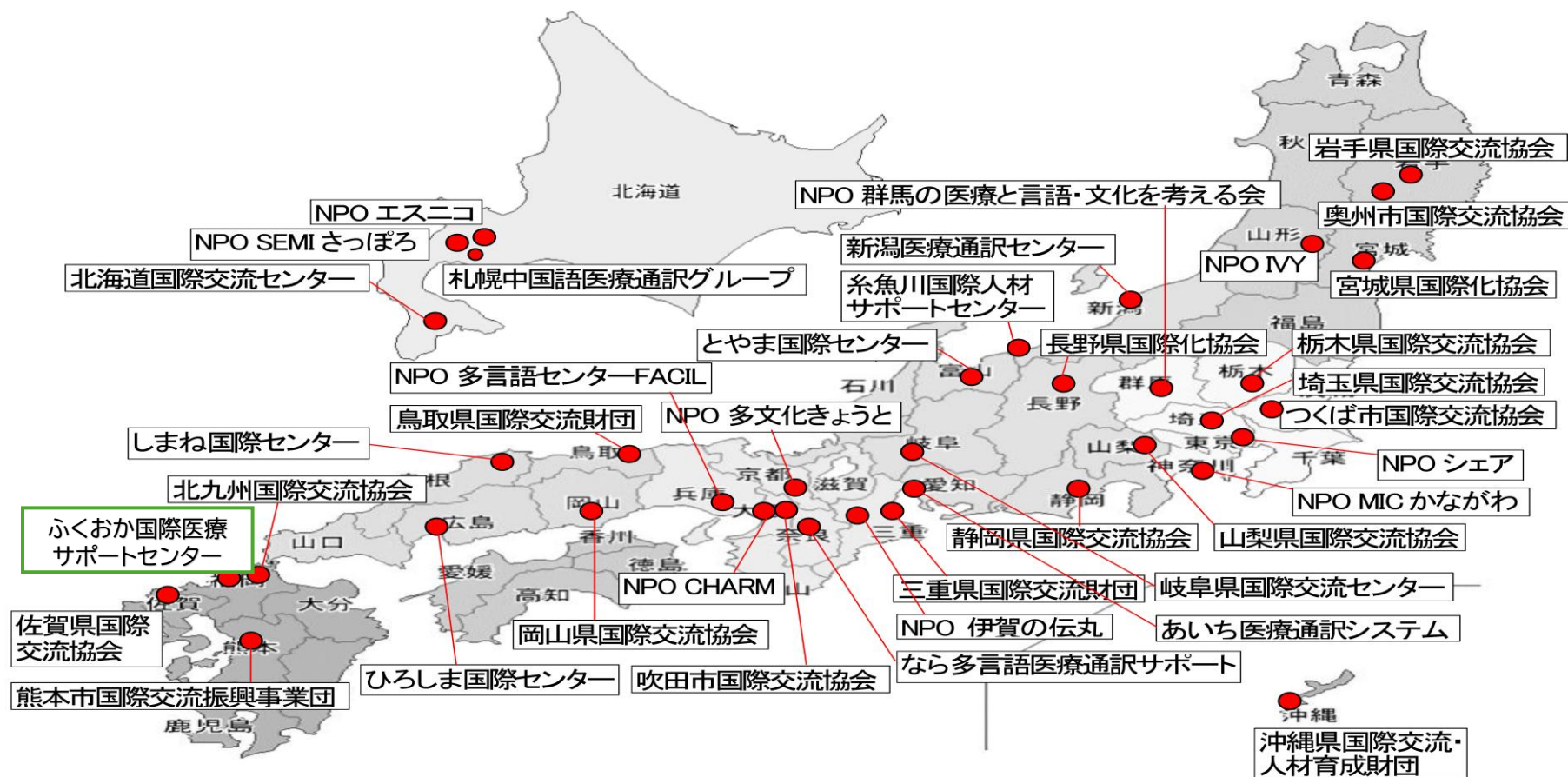
【ビデオ通訳】



医療通訳団体の分布

通訳者数:約4000人が地域団体に登録.

その他にも病院職員, 民間電話通訳者として1000人以上が活動¹⁾



山口県国際交流協会、ウェラワリーも含め全国31都道府県に計40団体(2020年3月現在)

注1) 山田秀臣,厚生労働行政推進調査事業費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)分担究報告書, 2016.

本日の話題

1. 医療通訳についての基礎知識
2. 言語支援上の課題を学ぶ
3. 通訳活用のポイントを理解する



医療通訳 vs. 発達支援通訳

【医療】

- ・ 基本的には病気の治療(一部予防)
- ・ 問診→検査→診断→治療
- ・ 患者中心の医療

【発達障がい】

- ・ 脳機能の問題からくる特性
- ・ ライフステージ毎に関係者と長期的な関わり
- ・ 保護者と専門家とのやり取り
 - 子どもに対する思い, 不安, 地域・親族からの差別・偏見

支援上の問題

問題	件数 N=63 (%)
発達及び子育て支援と文化	21 (33.3)
通訳・コミュニケーション	19 (30.2)
制度理解と利用	10 (15.9)
家庭環境・暮らし	4 (6.3)
発達の評価が困難	4 (6.3)
親同士の交流	3 (4.8)
文書が読めず理解できない	2 (3.2)

引用:平成29年厚生労働科学研究費補助金「外国にルーツをもつ障害のある子どもの実態と支援に関する研究」より

通訳を介した会話がある場面

場所	担当者	内容	利用側の問題点
保健センター	保健師	1.5才, 3才児健診時の相談, 個別指導, 臨床心理士とのセッション, 時に療育へ	面談の目的が伝わらずキャンセルも
療育センター	職員	言語訓練・集団療育	
病院	医師	診断, 服薬, 助言	患者による通訳手配が必要
病院	医師 コメディカル	精神科以外の一般内科, 歯科医受診など他科診療時に配慮が必要	説明が短い, 避ける
保育園・幼稚園・学校	担任/養護教諭 支援職員 スクールソーシャルワーカー (SSW)	就学前年に特別支援学級の見学 発達検査 結果説明	
市役所発達支援担当課	心理士	生活面、発達検査、結果説明	

通訳者が難しいと感じること

【日常用語と専門用語の混在】

- ・ カッとなる, うろうろする, こだわり, セーターがチクチクする
- ・ 情動調整の困難, 多動性, 認知的柔軟性の困難, 感覚過敏

【制度に関する名称・説明】

- ・ 発達検査への介入方法
- ・ 利用制度や名称(地域により呼び方が異なる)

【日本文化に根づいた検査や遊びの表現】

- ・ 「ケンケンできる～?」「お饅頭が2個あります」
- ・ 母国文化を持つ親は日本で育つ子どもに聞かれても教えられないことも

【「発達障がい」の国による捉え方の違い】

- ・ 「発達の遅れ」「発達障がい」について保護者に伝える際の配慮

医療通訳を利用するときの留意点

- ◆ 通訳者を利用者に紹介する
- ◆ 会話の目的を伝える
- ◆ 通訳の仕組みを理解する
- ◆ 逐次通訳がしやすい配慮(ゆっくり, 主語を入れて, 簡潔に)
- ◆ あいまいな表現を避ける(慣用表現, 具体的, 平易な構文)
- ◆ 同音異義語には, 特に注意
- ◆ 専門用語は最小限に
- ◆ 指示代名詞、図や絵を利用
- ◆ 最後に利用者へ理解度を確認



通訳者を利用者に紹介する

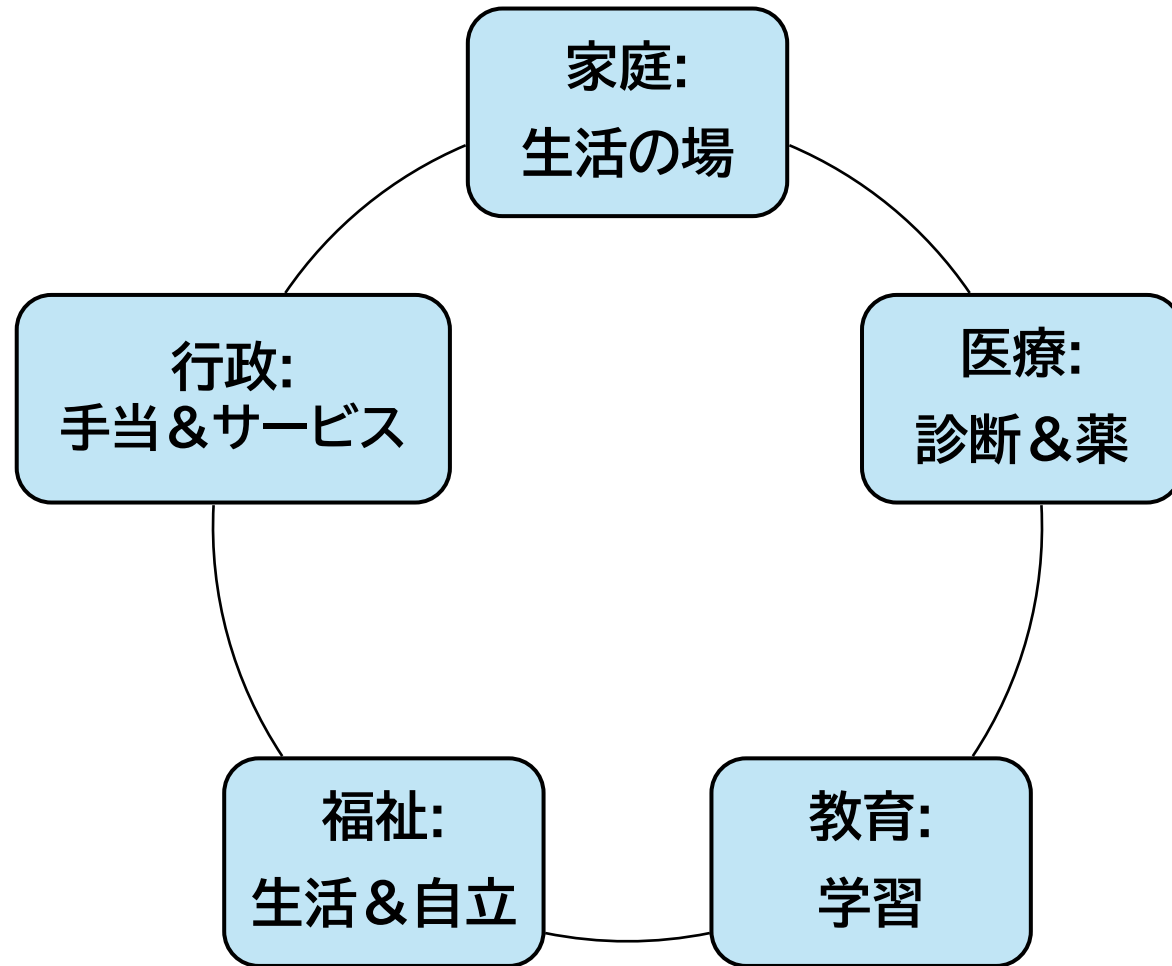
◆ 通訳者の立場や役割を利用者に伝える

例)：「今日は〇〇語の通訳が入ります。通訳者には守秘義務があるので、
ここでの話が外で繰り返されることはありません。どうぞ安心して何でも話してください。」

◆ もしくは、通訳者自身が自己紹介

例)：「医療通訳者の〇〇です。正確に通訳し、秘密を守ります。今日はどうぞよろしくお願いいたします。」

会話の目的を伝える



- ◆ 発達障害支援は、多分野にまたがる対応が必要
- ◆ ライフコースと共に児/家族の困りごとや担当者も変化
- ◆ 通訳者には、会話や面接が始まる前に会話の目的、対象者の状況、注意点などを共有
- ◆ 内容や状況により通訳者のアプローチも異なる

通訳の仕組みを理解する

◆ 確認する時間を通訳に与えて欲しい

通訳は正確に訳すために内容を「聞き返し」て確認したり, わからない単語を辞書で確認する

◆ 検査の指示は具体的に

たとえば・・・

「朝ごはんを食べずに来るように」との指示に

➡ 早朝3時に食事 / お菓子を食べてくる というようなケースも



逐次通訳がしやすい配慮

◆ ゆっくり、主語をいれて、短く、簡潔に話す

⇒ ただし、文章の途中で区切る必要はなし

◆ 1つの文章には1つのメッセージ

【悪い例】

口内炎の薬は、ステロイドが含まれていることが多く、避けたい気持ちも分かりますが、
そうはいえ、治らないと栄養が取れなくてますます長引く可能性がありますから、
うーん、痛がる時には冷たい水を口にふくませて、そうそう消化の良いうどんやスープなど
食べさせてあげてください。

慣用表現が持つあいまいさ

【発達障害特有のフレーズ】

- ・ 発達の特性 / 発達にでこぼこがある
- ・ こだわりが強い
- ・ おもちゃを一列に並べる / 逆さバイバイ
- ・ オウム返し

【多義的な表現】

- ・ 「言葉の遅れ」→話し方 speech, 発話utterance, 語彙vocabulary?
- ・ 「はっきりと話せない」 mispronunciation, slurred?
- ・ 「滑舌がよくない」 can't pronounce clearly (pronunciation/articulation / fluency)
- ・ 「流暢に話せない」 he can't speak smoothly (つかえる, 言葉が出ない, 途中で止まるなど)

本日の話題

1. 医療通訳についての基礎知識
2. 言語支援上の課題を学ぶ
3. 通訳活用のポイントを理解する



あいまいな表現を避ける

◆ 具体的に説明

例：「いつもと違うなと思うときは、病院に連絡を下さい。」

➡ 具体例①：「けいれんが止まらないとき」

➡ 具体例②：「夜泣きがいつもより激しいとき」

➡ 具体例③：「38度以上の熱が2日以上続くとき」 など



あいまいな表現を避ける

◆ 二重否定は伝わりづらい

例:

「発達障害ではないとは, 言えない」

➡「発達障害の可能性は残っている」



同音異義語には、特に注意

【同音異義語】

- ・ 抜歯 と 抜糸
- ・ 感染 と 乾癬

【同じような発音や意味の単語】

- ・ 発音や綴りが似ていても意味が異なる単語がある
- ・ スペイン語の [*embarazada*] は、英語の [*embarrassed*] (当惑している) と混同されやすいが、実際には『妊娠中』を意味する
- ・ 日本語の「整形外科」と中国語の「美容整形外科」

専門用語は最小限に

- ◆ 日本語の医療用語と同等の言葉がない言語がある
- ◆ 説明調に訳すため長くなる

《例：タイ語》

卵管…「ท่อนำไข่ 卵を導く管」 / 「ปีกหมดลูก 子宮の翼」 / 「ท่อนรังไข่ 卵巢の管」

⇒ 通訳者により説明が異なる

⇒ それであれば、始めからやさしい日本語で説明した方が確実



専門用語は最小限に

◆ 耳で聞いてピンとこない単語

- ・ 薬袋(やくたい) ⇒ 薬を入れる袋
- ・ 頓服薬(とんぷくやく) ⇒ 症状が出たときだけ飲む薬



◆ 薬はていねいな説明が必要な時も

- ・ 坐薬、粉薬、吸入薬、頓服薬
- ⇒「〇〇ってわかりますか？」と通訳者/利用者に確認



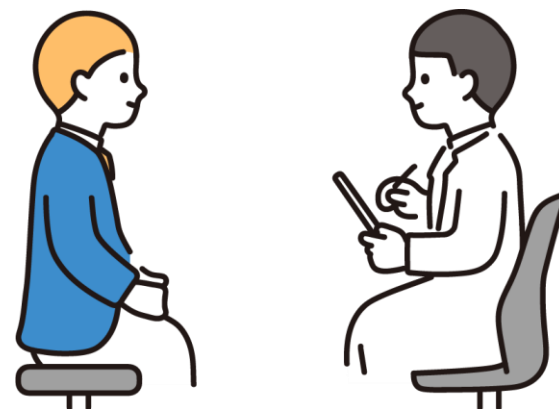
利用者の理解度を確認

◆ 受け止め方の違いに注意

- ・「今のまま様子を見ましょう」
⇒治療の意思がないと思い, 黙って転院

◆ 面接終了前に内容の要約や理解の確認をする

- ・ 利用者が正しく理解していることを確かめる
- ・ 認識が異なる場合は軌道修正をする



まとめ

1. 医療通訳についての基礎知識
2. 言語支援上の課題を学ぶ
3. 通訳活用のポイントを理解する



これから

◆ 発達支援に特化した通訳研修の必要性

- ・ 単語, 言い回し, 精神科に関する専門用語
- ・ 背景知識の蓄積
- ・ 発達障害児や養育者の立場への理解
- ・ 通訳練習(場面ごと)

ーWISCなど知能検査に求められる「何も足さない」「ヒントを(無意識に)出さない」訓練